



現代のSNS社会では「映える」か「映えない」かが、自分の価値を判断する大きな基準となっています。そこでは、誰もが無意識のうちに自分を加工し「いいね」を求めて「映え」を演じ続けています。しかし、仏教が説く「後生の一大事」という視点に立つとき、その「映え」は一瞬で消え去る幻のようなものだと気づかされます。

後生の一大事とは、遠い未来の死後の話ではなく、今この瞬間私に訪れる強制ログアウト（死）のことです。スマホの電源が突然落ちるように、その瞬間は予告なくやってきます。必死に積み上げてきた「映え」や「いいね」は何一つ持つていくことができず、その後に残るのは孤独で無加工の私だけです。

この一大事を解決するために、今私に届いているネットワークが「南無阿弥陀仏」のお念仏です。阿弥陀さまは私が誰からも「映えない」姿であっても「そのままのあなたを必ず救う」と約束してくださっています。

SNSの世界は賑やかで時に孤独で時に疲れます。「南無阿弥陀仏」とそっと呟くそのときに、私は決して孤独ではないと気づかされます。その安心があるからこそ、阿弥陀さまの慈悲の眼差しの中ありのままの私で精一杯生きていくことができますのです。



現代のSNS社会では「映える」か「映えない」かが、自分の価値を判断する大きな基準となっています。そこでは、誰もが無意識のうちに自分を加工し「いいね」を求めて「映え」を演じ続けています。しかし、仏教が説く「後生の一大事」という視点に立つとき、その「映え」は一瞬で消え去る幻のようなものだと気づかされます。

後生の一大事とは、遠い未来の死後の話ではなく、今この瞬間私に訪れる強制ログアウト（死）のことです。スマホの電源が突然落ちるように、その瞬間は予告なくやってきます。必死に積み上げてきた「映え」や「いいね」は何一つ持つていくことができず、その後に残るのは孤独で無加工の私だけです。

この一大事を解決するために、今私に届いているネットワークが「南無阿弥陀仏」のお念仏です。阿弥陀さまは私が誰からも「映えない」姿であっても「そのままのあなたを必ず救う」と約束してくださっています。

SNSの世界は賑やかで時に孤独で時に疲れます。「南無阿弥陀仏」とそっと呟くそのときに、私は決して孤独ではないと気づかされます。その安心があるからこそ、阿弥陀さまの慈悲の眼差しの中ありのままの私で精一杯生きていくことができますのです。